

表紙作品解説



四季花卉図 一幅 跡見花蹊筆

明治10年(1877) 174.5×100.0cm

絹本着色 跡見学園女子大学花蹊記念資料館蔵

ひときわ大きい芍薬しやくやくを中心に、四季折々の花卉を色彩豊かに表現している。芍薬の左下には、薔薇ばらと嬰麦なでしこ。芍薬の上には、蕙つたの葉と朝顔あさがお、芙蓉ふようが白い花をのぞかせ、紫苑しおん、南天なんてんが描かれる。芍薬の右と下には、寒菊かんぎくと雪下ゆきのした。右上は桜花で、添うように紫の藤が花房を垂らす。画賛にも四季の花に桜を加え工夫したと書き添え、その配置の巧みさには十代の頃に学んだ円山派の技法が生かされている。

この作品を描いた時、花蹊は38歳。跡見学校を開き、画家としての評価も高まっている頃である。若々しい息吹と意気込みが伝わる華麗な作品である。

写真提供：跡見学園女子大学花蹊記念資料館

文：学芸員 渡辺 泉